

	岡山大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:120） 環境理工学部（第1年次:150） 大学院環境生命科学研究科（M:159 D:42） 資源植物科学研究所
沿 革	昭和24（1949）年 新制岡山大学創立 農学部設置 昭和44（1969）年 大学院農学研究科修士課程設置 昭和62（1987）年 大学院自然科学研究科博士後期課程設置 平成6（1994）年 教養部を廃止し、環境理工学部設置 平成11（1999）年 大学院農学研究科を廃止し、大学院自然科学研究科博士前期課程設置 平成17（2005）年 大学院環境学研究科博士前期・後期課程設置 平成24（2012）年 大学院環境生命科学研究科博士前期・後期課程設置 平成22（2010）年 岡山大学農学部附属大原農業研究所、岡山大学農業生物研究所、資源生物科学研究所を経て、資源植物科学研究所設置 平成22（2010）年 資源植物科学研究所が共同利用・共同研究拠点に認定
設置目的等	<p>昭和21年、農業の専門の学理を研究し、その技術の習得の修得により優秀な農業技術者の養成を図ることを目的に、岡山大学農学部の母体である岡山農業専門学校が設立された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時には、岡山農業専門学校は、岡山大学農学部として承継された。</p> <p>昭和44年、農業の近代化と合理化の要請に対応して農業教育の高度化を図ることを目的に農学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和62年、理学、薬学、工学、農学研究科を基盤とした広い視野から新しい学問体系の組み立てを行うことを目的に、自然科学研究科博士後期課程が設置された。</p> <p>平成6年、自然環境、人間環境及び社会環境に関する研究を学際的な立場から集大成し、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造するための学術研究、教育を行うことを目的に、環境理工学部が設置された。</p> <p>平成11年、専門性の深化と学際性の幅を広げることを目的に、自然科学研究科博士前期課程・後期課程に改組された。</p> <p>平成17年、環境分野の教育研究を、持続可能な循環型社会構築と安</p>

	<p>全・安心の社会実現という理念の下で再構築し、美しく豊穡な国土と風土の形成，健康で安心な生活空間の構築，並びに合理的な物質循環システムの確立を目的として，環境学研究科博士前期課程・後期課程が設置された。</p> <p>平成24年，生産環境の保全・管理と連携した農業生産技術の研究開発を目指すために環境系分野との連携を図ることを目的に，環境生命科学研究所が設置された。</p> <p>平成22年，国内外の研究者と連携し，劣悪環境でも生育可能な作物の創出に向けた基礎研究を推進することを目的に，岡山大学農学部附属大原農業研究所，岡山大学農業生物研究所，資源生物科学研究所を経て，資源植物科学研究所が設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>岡山大学は，中国山地ならびに瀬戸内地域の豊かな自然と風土のもとで，中国・四国・近畿の地域からの至便なアクセスを活用して，食料の生産・生態環境の保全・生物資源の利用等，生命を支える農学を考究し，地域や社会の発展に寄与することを目指し，教育・研究・社会貢献に取り組むとともに，総合大学の特徴を生かし，異分野融合による新しい分野の創出を目指しており，以下の強みや特色，社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幅広い教養や倫理観を養い，食料・環境・資源等に関する基礎学力を授けるとともに，フィールドにおける実践学習を展開し，専門的知識・技術と指導力を有し，広い視野で応用力を発揮できる人材を育成する役割を果たす。更に複眼的な視野から，独創性に富み，高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。</li> <li>○ 専門性と総合性を兼ね備え，多様化する社会に対応し，幅広い領域で応用力を発揮できる人材育成を目指した教育のために全国でいち早く採用した学部の一学科制を継続する。また，地域営農者との交流を通じた特色ある教育を進めてきた実績を生かし，国や地方自治体等と様々な地域社会連携実践型人材育成教育プログラムを構築してきた。これらの特色ある教育改革の実績を生かしながら，グローバルな課題解決能力を持つ農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。また，保健学との融合教育(生殖補助医療技術育成キャリア養成特別コース)を実施する。更に学部・大学院の一貫的な教育(先進基礎科学特別コース)を実施する。</li> <li>○ 農学・森林科学系としての世界的な高い研究評価，特に植物遺伝資源・植物ストレス科学分野における世界トップクラスの高い研究</li> </ul>

実績を生かし、先端的研究の積極的な展開を図る。また、非常に高く評価されている国内外との共同研究を今後も積極的に進め、特にアジア・アフリカ地域に貢献できる研究を行う。さらに、医学、薬学や工学をはじめとする異分野との融合による研究プロジェクトを推進する。

- 国や地方自治体等の農業、林業、食品、環境、農業土木等に関する委員会等への外部委員としての参画、岡山県研究機関や農業団体との果樹園芸、畜産、林学関係の共同研究等、地域社会に貢献してきた実績を生かし、岡山県をはじめとする周辺地域の農業、食品産業の振興等に寄与する。また、岡山県・岡山市と共同で、ユネスコが推進する「持続可能な開発のための教育（ESD）」を積極的に進める。さらに、生殖補助医療技術キャリア養成特別コースでは地域医療機関とともに地域医療に貢献する人材の育成を図る。
- 社会人学び直しに向け、地域農業者・農業団体・医療機関・官公庁・企業等と協力して、地域農業・食品生産・生殖補助医療技術者のリカレント教育を実施する。また、社会人が入学したい環境を整えるとともに、公開講座等を実施して、社会人に農学の学びの場を積極的に提供する。
- 農学分野の人材育成強化を目指し、小中高等学校と連携して出前講義等を数多く実施するとともに、国際バカロレア入試による入学生の受け入れ、マッチングプログラムコースからの卒業研究受け入れを継続実施する。